

事業中評価チェックリスト

						番号	10
事業名	道路事業(交通安全)	路線・河川 ・地区等名	主要地方道 やまがたなんよう いたみや 山形南陽線 板宮工区	施行 場所	なんようし いたみや 南陽市 板宮		
評価該当基準	新規事業採択後 5 年間を経過した時点で継続中の事業 (山形県(県土整備部)公共事業評価実施要領 5-(1)-イ-(イ))					実施主体	山形県
事業採択年度 目標年度 [当初目標年度] (過年度評価時目標)	R 2 年 R11 年 [R11 年] (---)	全体事業費(進捗度%)	9.5 億円 (48.5%)	事業延長等	L=973m		
		内工事費	7.5 億円 (38.6%)				
		内用地・補償費	1.0 億円 (96.0%)	供用延長等	L=232m		
		内測試費等	1.0 億円				
事業の目的(地域性・特質性) ・当該箇所は狭隘部や屈曲部が多く、利用者が危険にさらされている状況である。 ・特に小中学生を乗せたスクールバスが運行しているため、走行車両とバス停までの歩行空間の安全性の確保が急務となっている。 ・また、緊急輸送道路(2次)であり、公立置賜総合病院や公立置賜南陽病院等への搬送ルート、孤立集落への対応も必要なことから、狭隘・屈曲部の解消による視距改良と、歩道設置による歩行者の安全性の確保を図るものである。							
事業概要(主要工事内容) ・ 主要工事:道路拡幅、地すべり抑止杭工 事業延長 L=973m 計画幅員 W=5.5(8.0)[10.5]							
事業の実施状況 ・R2 路線測量、地質調査、詳細設計 ・R3 用地調査 ・R4 用地補償 ・R5～R6 道路改良工事							
上位計画、その他事業との関係(各上位計画で定めている項目を表すコード) ・第4次山形県総合発展計画 → 暮らしの様々なリスクへの対応力の強化(4-2) ・山形県道路中期計画 2028 → 人にやさしく安全・安心な道路整備に向けた多様な取組の推進(施策⑤)							
今後の事業の見通し ・用地補償については、令和 6 年度に完了見込み。計画的に工事を進め、令和 11 年度までに全線供用を目指す。							
事業を巡る社会経済情勢等の変化 ① 国、県の政策や計画の転換等 - R 2 年 3 月:「第 4 次山形県総合発展計画」策定 - H31 年 3 月:「山形県道路中期計画 2028」策定 上記計画に位置づけられた施策や方針に基づき取り組む事業として推進している。 ② 財政状況の変化 - 道路整備の事業費が減少している厳しい状況にあるが、「選択と集中」及び「効率的・効果的な事業の執行」により、投資効果の早期発現を図ることとしている。 ③ 事業実施地域の周辺環境の変化 - 周辺環境に大きな変化は見られない。 ④ 地元の協力体制の変化 - 地元協力体制は良好であり、変化はない。 ⑤ 利用者見込み者数の大幅な変化 - 想定交通量に大幅な変化はない。 ⑥ 代替方策による必要性の変化 - 用地をほぼ取得済みであることから、代替方策はない。また、事業の必要性に変化はない。							
事業の投資効果 (凡例) ● 貨幣換算し、費用便益分析における便益(B)に計上している事業効果 ○ 貨幣換算する手法が確立されていないものの、事業により得られる効果の例							
投資効果	○ 通学児童等が安全で安心して歩行できる空間が確保される。 ○ 道路幅員の確保、線形改良により、走行性・安全性の向上が図られる。 ○ 物流の向上・救急医療機関へのアクセス向上が図られる。						
社会的割引率	B/C						
4%	-						
2%(参考値)	-						
1%(参考値)	-						
B/Cの代表的な分析指標				事業目的(交通安全)に対応した費用対効果の算出方法が確立されていない。			
●コスト縮減・○代替案等の可能性 ○片側歩道として最低限必要な幅を拡幅する計画であり、計画的に進んでいることから代替案の可能性はない。							
当初又は前回評価時目標年より延長となる場合の理由(計画どおりの場合は空欄) ・ -							
評価区分	継続A	評価の理由	計画どおりに進んでおり、事業効果を発現させるため、継続としたい。				